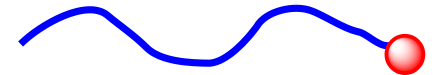


PEGの種類と主な用途

- 直鎖PEG誘導体

単官能性：片末端に官能基を有し、ペプチドやタンパクのPEG化、
またリポソームやミセルなどのナノ粒子を被覆し、
血中においてタンパクの吸着を抑制し薬物動態を
向上させます。



二官能性：両末端に反応基を有し、物質同士の架橋剤として
用いられます。また、**ナノ粒子のアクティブ
ターゲティング**などに適しています。



- 分岐PEG誘導体

Ysharp型PEG：1本鎖のPEGを分岐させることにより、
Vsharp型PEG PEG密度が増加し、消化酵素などのタンパクとの接触を抑制し、直鎖PEGよりも血中安定性を向上させる効果が期待されます。



4armPEG：おもに架橋剤としてハイドロゲルを生成し、
8armPEG 細胞接着や足場の作製に使用することができます。

